

## 目標達成計画

作成日: 平成 29 年 4 月 26 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議には、ご利用者、松山市、地域包括センター、町内会長、民生委員の方々の参加はあるが、利用者ご家族の積極的な参加がないので、気軽に参加していただけるような働きかけが今後の課題である。	運営推進会議においては、ご家族や、又どなたにでも気軽に参加していただけるような会議を開催する。	ご家族は、仕事をされている方が多く、スケジュール的に難しい場合が多い。しかし、今後、運営推進会議への参加をお願いするために、ホームでの職員会議で知恵を出し合ったり、会議にご参加いただいている方々にも何らかのアドバイスをいただけるように相談していくようにする。	3ヶ月
2	6	ご家族がホームに来られた際に意見をお聞きするだけでなく、家族と一緒に勉強したり活動したりするような機会を積極的に設け、家族との関係を作っていくようにする。	面会時だけでなく、それ以外にもご利用者やご家族の意見や要望を反映させるような仕組みや勉強会を行う。	ご利用者やご家族に、電話での聞き取りや定期的なアンケート調査を行い、施設への意見や要望を聞き取っていく。又、その結果は、職員会議や推進会で公表していく。年に一度、家族会や勉強会を開き、家族とより良い関係を作りを行っていく。	6ヶ月
3	9	今後、利用者の生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、今後の暮らし方の希望等についての情報を蓄積し、アセスメントの充実に取り組み、介護計画に反映する仕組みづくりが期待される。又、日々の介護記録の書き方等を工夫して、利用者がより良く暮らせるように活用してほしい。	ケアプランに生活歴支援の枠を設け、ケアプランに基づいてサービスを行う。モニタリング表を作り、次回の計画に活かすことで、利用者様が自分らしい生活を送られるよう、個人の趣味やこだわりを尊重し、サービス改善に努める。	ご本人の記録や家族との相談から汲み取った情報の中で、趣味やこだわりを見つけ、ケアプランに生活歴支援の枠を設ける。ケアプランに基づいて介護現場で日々の生活の支援にプランを取り入れ、介護を行い、現状感のある記録を取る。モニタリング表を作り、できた程度やできなかった理由を記録に残し、次回の計画に活かすことで、利用者のサービス改善に取り組む。	6ヶ月
4	15	配食サービスが主体となっており、手作り料理は季節行事や誕生日、イベント時に職員が作っている。食事中は職員は立って見守りをしている、雰囲気暗い。	手作り食の回数を増やしていく。又、食事時には可能な限り、職員も同じテーブルで食事を食べる。料理作りの苦手な職員は、料理作りを徐々に勉強する。	手作りメニュー時には職員も同じメニューをいただき、それ以外にも、ご利用者の状態が良い時には、同じテーブルで食事をいただく。食事中はテレビを消し、静かな音楽を流し、楽しい雰囲気を出す。又、ご利用者の好みのメニューを、普段の会話の中で聞き取りして記録に残し、職員がその情報を共有するようにしていく。可能な限り手作りメニューを増やし、料理が苦手な職員にも勉強してもらおう。	3ヶ月